

平成 23 年度
横須賀美術館 評価報告書
(一次評価)

平成 24 年 (2012 年) 7 月
横須賀美術館評価委員会

I 美術を通じた交流を促進する

① 広く認知され、多くの人にとって横須賀市を訪れる契機となる。

[一次評価]

達成目標	実施目標
A	A

【達成目標】年間観覧者数 10 万人

[目標設定の理由]

- ・「横須賀市立美術館基本計画」（平成 12 年 6 月策定）では、他の公立美術館の実績を参考に、施設の規模、本市の人口などを勘案し、年間観覧者数を 10 万人と予測しました。開館後は、その予測を年間観覧者数の判断基準としています。
- ・平成 22 年度は、3 月に発生した東日本大震災の影響を受けながら、なんとか目標を達成する状況でした。23 年度も、震災の余波から外出を控える傾向が継続するものと予想されるなか、チャレンジングな目標として 10 万人を目指しました。

年度	平成 19 年度	平成 20 年度	平成 21 年度	平成 22 年度	平成 23 年度
観覧者数	165,961 人	106,520 人	98,738 人	100,033 人	108,985 人
来館者数	386,175 人	246,337 人	224,729 人	231,826 人	224,109 人

(ア) 観覧者数

発券数を根拠とした計算値。一日に複数の展覧会を見た場合も累計しない(企画展、所蔵品展、谷内六郎館を見た場合、1 人と数える)。無料観覧者数を含む。展覧会を見なかった人(例:図書室のみ利用)は含まない。

(イ) 来館者数

本館の 2 か所の出入りに設置しているオートカウンターによる計測値。入っていく人のみを数え、出ていく人は数えない。谷内六郎館に入る人を加算していない(いったん本館で受付をするため)。レストランのみの利用者も加算していない。

[一次評価の理由]

- ・年間観覧者数は 108,985 人で、目標を達成することができました。開館年度を除けば、過去最高の人数となります。
- ・トリック&ユーモア展は、予想を大きく上回る多くの方々にご観覧いただきました。

展覧会名		観覧者予測	実績	達成率
企画展	原口典之・若江漢字 展	2,000	1,273	63.65%
	川端実 展	16,000	10,778	67.36%
	おもしろどうぶつ展	17,000	19,508	114.75%
	トリック&ユーモア展	20,000	40,813	204.07%
	島田章三 展	10,000	7,004	70.04%
	児童生徒造形作品展	15,000	14,151	94.34%
	正岡子規と美術	13,000	8,871	68.24%
所蔵品展		12,000	6,587	54.89%
計		105,000	108,985	103.80%



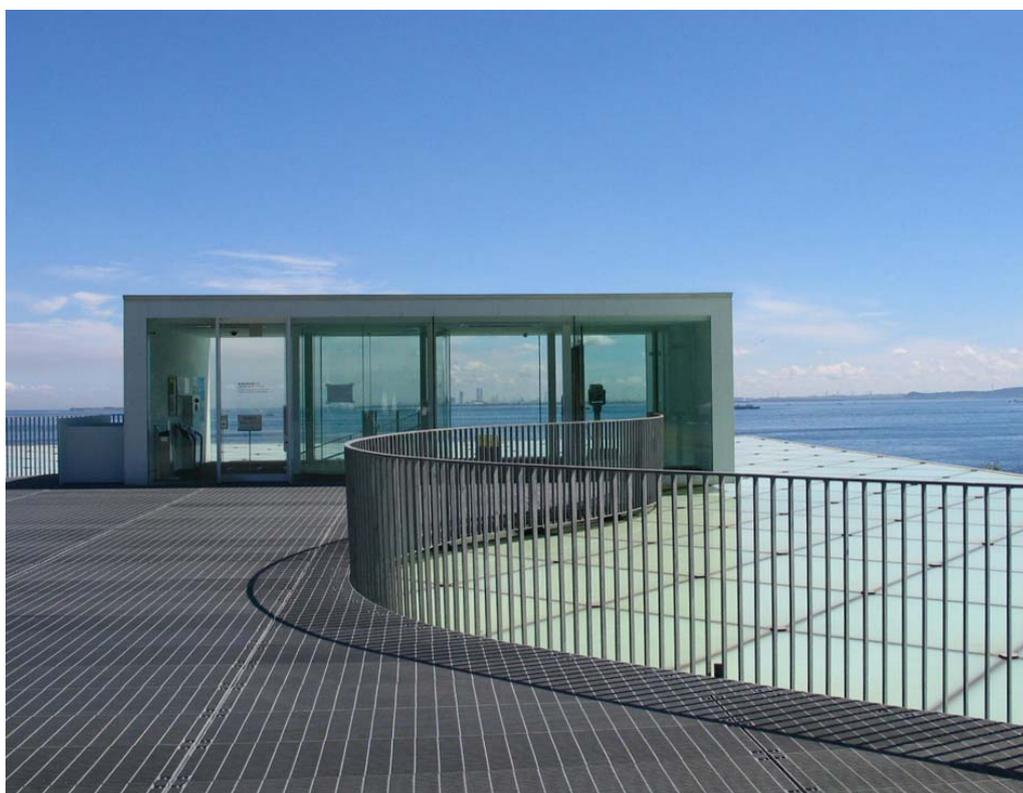
【実施目標】 広報、パブリシティ活動を通じて、市内外の広い層に美術館の魅力をアピールする。

〔目標設定の理由〕

・横須賀美術館は、企画展・所蔵品展の内容はもちろんのこと、その絶景のロケーションからも一度お越しいただければ、きっとご満足いただけるだけの魅力を持っていると考えています。

絶景美術館にも選出*された当館の魅力は、本市の貴重な都市資源であり、これを有効活用することは、本市のシティセールスや交流都市の推進という観点からも重要になります。

そのためには、市内外に積極的に情報を発信して広い層に美術館の魅力をアピールすることで知名度や認知度を向上させていくことが必要と考え、実施目標として設定し



*OCN artgene が選ぶ「絶景美術館トップ 5」の 5 位に選出されました。(2010.12)

〔一次評価の理由〕

・有料での広報は、次のとおり、展開しました。

京急線窓上及び主要駅（30 駅）へのポスター掲出

大江戸線ステッカー掲出 東急東横線 窓上掲出

横須賀線窓上掲出 JR 横浜駅、逗子駅、鎌倉駅へのポスター掲出

「どうぶつ展」チラシの制作及びポスティング

- ・無料の広報は、従来のとおり訴求活動を中心に実施し、展覧会毎の新聞、雑誌等の無料での情報掲載数は前年度以上となりました。

	平成 21 年度	平成 22 年度	平成 23 年度
新聞	10 件	40 件	46 件
美術系雑誌	43 件	38 件	37 件
タウン紙	34 件	20 件	28 件
フリーペーパー		18 件	6 件
情報誌（地域版）		5 件	4 件
情報誌（全国版）	21 件	18 件	19 件
WEB	24 件	15 件	30 件
ファッション誌	4 件	11 件	6 件
機関紙	25 件	13 件	12 件
その他		8 件	12 件
合計	161 件	186 件	200 件

テレビ	8 件	6 件	16 件
ラジオ	2 件	10 件	5 件

- ・平成 23 年 7 月から開始した横須賀市公式ツイッター（フォロワー数 3144、5 月 20 日時点）に、展覧会やワークショップ、イベント情報などを随時掲載しました。

【前年度からの課題への取り組み】

[一次評価で掲げた課題]

- ・美術館単独でのアピールには限界があるので、他部課や外部団体と連携していきます。
- 「トリック&ユーモア」展では、子ども向けのチラシを作成し、市内の小・中・養護学校に対し全児童生徒への配付を依頼しました。
- 「正岡子規と美術」展では、みかサルネッサンス事業実行委員会（横須賀市、（財）三笠保存会、横須賀商工会議所、京急電鉄（株）、松山市）と連携して集客と広報に取り組み、下記を実施しました。
- ・スペシャルドラマ「坂の上の雲」パネル展ほかの同時開催（会期中）
 - ・記念艦三笠～美術館間で無料シャトルバス運行（4 月 1 日までの土・日・祝）
 - ・京急線内で B 1 ポスター先行掲出（1 月 13 日～2 月 9 日）
 - ・京急品川駅ホームでの広告掲出（2 月 1 日～3 月末）

[二次評価で指摘された課題]

- ・何が集客につながり、何がつながらなかったのか、今後とも観覧者予測の根拠となるものを含め、原因をきちんと分析していく必要がある。[杉戸]
- ・それぞれの展覧会の集客要因についての分析が1次評価に含まれていたほうがよい。

[山梨]

→「おもしろどうぶつ展」、「トリック&ユーモア展」が、予測を上回った要因としては、テーマが美術ファンだけでなく、幅広い世代や層に受け入れられたことが一因と考えられます。

- ・23万人前後で安定しつつある「来館者数」についても、考慮に入れるべき。[山梨]
- 観覧者数だけでなく、来館者数についても情報を発信するよう努めていきます。

- ・横須賀市の市立美術館としての特性を活かし、市の広報誌と連携をはかり、地域社会に向けて催事の内容がわかるようなPR活動を一層強化する。[小林]

→「広報よこすか」は、毎月「美術館ニュース」という枠で展覧会やワークショップ等の情報を掲載しています。また、美術館ニュースの枠に加えて、随時、通常面にも掲載しています。

- ・様々なイベントを開催しているのも横須賀美術館の特徴であるので、そのようなイベントの紹介ももっと積極的に行っても良いと思われる。[杉戸]

→イベントやワークショップは事前告知での掲載だけでなく、当日の取材に来ていただけるよう努めていきます。

【次年度への課題】

- ・認知度の向上やイメージアップのため、市内外のイベント会場での広報活動や、ニュース記事となるための自発的な話題づくりが必要と考えます。

②市民に親しまれ、市民の交流、活動の拠点となる。

〔一次評価〕

達成目標	実施目標
A	A

【達成目標】市民ボランティア協働事業への参加者数のべ1,000人
(事業ごとに加算、登録者・一般参加者を総合して)

〔目標設定の理由〕

- ・参加者数は「活動が活発に行われているか」「魅力的な活動を企画しているか」をはかるための端的な指標となります。過去の実績を踏まえ、達成が可能な数値として1,000人と設定しました。

〔一次評価の理由〕

- ・23年度ののべ参加者数は1,438人となり、目標を達成しました。
(市民ボランティア協働事業へののべ参加者数)

	プロジェクトボランティア		サポートボランティア		計
	登録者	一般参加者	登録者	一般参加者	
21年度	115	466	443	254	1,278
22年度	91	580	375	174	1,220
23年度	197	533	434	274	1,438

*プロジェクトボランティア

- ・美術館のイメージアップと美術館の利用を高めるため、自らイベントを企画実施するボランティア。
- ・主な活動は、市民等が参加し楽しめるボランティアイベントの開催。
- ・登録者数19名(平成24年3月末現在)

*サポートボランティア

- ・美術館が主催する活動に共感し、自身の知的欲求を充足しつつ美術館活動をサポートするボランティア。
- ・主な活動は、ギャラリートークの実施。ワークショップや鑑賞会の補助。
- ・登録者数28名(平成24年3月末現在)

〈プロジェクトボランティア〉

- ・開催時期や、海の広場の立地条件を考慮して、たくさんの人が集まる魅力的なイベントを企画しています。
- ・年3回(ゴールデンウィーク、夏、冬)イベントを開催しました。ボランティアの負担を考えて年2回とした年もありましたが、ゴールデンウィークにも開催したいとの要望もあり、限られた準備期間で実現させています。

- ・海の広場のイベントは、開催する季節を問わず、市内の子どもをもつ家庭の間で認知が広まっており、今後も定着が期待されます。
- ・各新聞社やミニコミ誌などメディアの取材に応じ、活動の紹介・イベント告知を行っています。

〈サポートボランティア〉

- ・第2期鑑賞サポートボランティアの研修が終了し、今年度より所蔵品展ギャラリートークや小学校の美術館鑑賞会補助の活動に携わっています。
- ・ギャラリートークへの参加者が増加しています。
- ・障害児を対象としたワークショップ「みんなのアトリエ」では、講師や活動内容に共感し、積極的に補助を申し出る方が増えました。

【実施目標】 ふだん美術館に関心を持たない層を含めた市民が、美術館に親しみを感じ、訪れる機会をつくる。

市民ボランティアが、やりがいを持っていきいきと活動できる場を提供する。

[目標設定の理由]

- ・市民感覚を持ったボランティアと協働することにより、市民にとって親しみやすい美術館により近づくことができます。また、美術館への親しみ、愛着を持ったボランティアの方々を架け橋として、より広い層の市民に美術館の魅力を知っていただく機会を増やしたいと考えています。
- ・横須賀美術館のボランティア活動は労働ではなく、美術館の担うべき社会教育の一環です。ボランティアがそれぞれの創意と経験を活かし、仲間どうし協力し、美術館ならではの活動をしていくこと、そして、やがてそれが地域の新しいコミュニティとなることを期待しています。

[一次評価の理由]

〈プロジェクトボランティア〉

- ・イベントを企画する際には、「だれでもやることができる」「フリーで来ても参加できる」「美術館を活かした活動をする」という点に特に留意しました。
- ・イベント当日は、お互いがそれぞれの得意分野を理解し、適切に役割分担をしていた。反対に、少し不慣れな活動を行う場合であっても、声をかけ合いながら和やかに準備等を進めることができました。
- ・新しいメンバーを迎えたことで、以前から参加しているボランティアも新たな意欲を持って取り組む様子がみられました。

〈サポートボランティア〉

- ・第2期生の活躍により、第1期の鑑賞サポートボランティアの方々にもよい影響があらわれています。
- ・他館のボランティアと交流する機会を設けたところ、早速自分たちの活動に他館の仕組みを取り入れるなど、積極的な活動展開がみられ、結果としてギャラリートークの参加者が増加しました。

- ・鑑賞サポートボランティアについては、ギャラリートークや小学生の美術館鑑賞会での対応にじゅうぶん習熟し、個性を活かした活動ができています。
- ・研修では、所蔵品だけでなく、企画展の内容についても紹介しています。
- ・障害児を対象としたワークショップ「みんなのアトリエ」においては、ボランティアの果たすべき役割への認識が深まっており、指示を待たなくても、それぞれ積極的に参加する様子がみられます。

【課題への取り組み】

[一次評価で掲げた課題]

- ・ボランティアの負担軽減のため、登録者を増やします。(二次評価でも、複数の委員から同様のご意見がありました。)
- ボランティア募集チラシを作成、また、美術館ニュース vol.9 にボランティア募集記事を掲載したところ、新規に6名の方に参加していただきました。

- ・活動の新しいあり方を模索します。

→

【次年度への課題】

ひとりひとりの負担を軽減するため、ひきつづきボランティアへの参加者を増やします。

- ・鑑賞サポートボランティアについては、第3期募集を行います。
- ・プロジェクトボランティアについては、ひきつづき参加希望者をつのり、活動への定着率を高めるよう努力します。
- ・ボランティア活動の新たな展開について検討します。

Ⅱ 美術に対する理解と親しみを深める

③調査研究の成果を活かし、利用者の知的欲求を満たす。

〔一次評価〕

達成目標	実施目標
A	A

【達成目標】企画展の満足度（補正值）70%

〔目標設定の理由〕

- ・展覧会を企画・実施することは、美術館にとって基本的な活動のひとつであり、中でも、年間6回開催している企画展は、波及効果が高く、最も力を注ぐべき事業といえます。こうした認識から、企画展に対する来館者の満足度を、美術館の社会教育機能の高さを示す目安の代表として掲げることとしました。
- ・満足度は来館者へのアンケートによって算出しています。同じ方法の調査を継続的に行っており、過去の実績から、達成可能な目標として、70%を設定しました。

年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度
企画展満足度	70.5%	76.0%	73.2%	78.7%	80.6%

〔一次評価の理由〕

- ・目標の70%を達成することができました。数値を年度別に比較すると、過去のどの年度よりも上回っています。「児童生徒造形作品展」を除いても、「集まれ！おもしろどうぶつ展」「島田章三展」「正岡子規と美術展」が80%の満足度を超え、全体的に高い数字を出している点が特徴です。
- ・企画展別にみると、「おもしろどうぶつ展」は、日本画、浮世絵、洋画、現代美術と幅広く多様な作品を展示し、親しみやすい現代彫刻と撮影できるコーナーを設け、子ども用ガイドを用意したことなどが、親子連れの来館者の高い満足度につながったと考えられます。「島田章三展」は、根強いファンが多く、展示への期待や作品に対する満足度の高さが全体の満足度を上げていると考えられます。「正岡子規と美術展」は、松山市との「集客パートナーシップ協定」にもとづいて、「坂の上の雲」関連企画として開催。幅広いファン層を獲得できたことが高い満足度を得られたと考えます。
- ・他の企画展の満足度も、概して高い水準に達しているといえます。
- ・「川端実」展については、要素別にみれば、心的充足について63.9%とやや低い数字であったものの、総合的には68.9%と現代美術の展覧会としては一定の満足度を

得られたと考えられます。

- ・「トリック&ユーモア展」は幅広いジャンルより作品選択を行い、結果として10代から50代まで幅広い年齢層が来館し、高い満足度を得られました。
- ・毎年恒例となっている「児童生徒造形作品展」の観覧者の多くは出品された子どもたちの関係者であり、内容を批判する要素に乏しいことから、他の企画展と満足度を比較するには注意が必要です。年度ごとの「企画展満足度」を算出する際には、それぞれの企画展の観覧者数の比率を反映させています。

【実施目標】

- ・幅広い興味に対応するようバランスをとりながら、年間6本（児童生徒造形作品展を含む）の企画展を開催する。
- ・所蔵品展・谷内六郎展をそれぞれ年間4本開催する。
- ・大人の知的好奇心を満たし、美術への理解を深めるための教育普及事業を企画・実施する。
- ・所蔵図書資料を充実させる。
- ・多くの人々が気軽に利用できるよう、図書室の環境を整える。
- ・主として所蔵作品・資料に関する調査研究を行い、その成果を美術館活動に還元する。

〔目標設定の理由〕

社会教育機関としての美術館は、常に知的好奇心を満足させる事業を発信し、また、そのための環境を整えていかななくてはなりません。美術として扱うべき領域はとても広く、利用者の幅広い興味に応えるためには、所蔵品展以外にもさまざまなテーマを設けた企画展を開催する必要があります。作品の借用が許される期間に限度があることなどを考慮し、1カ月半から2カ月程度を目安とした年間6本の企画展を計画・開催しています。

また、コレクションの魅力を紹介するために、所蔵品展および谷内六郎展をそれぞれ年間4本開催しています。

さらに、横須賀美術館では、美術への親しみ、理解を深めるために、講演会やワークショップなど、年間を通じてさまざまな教育普及事業を展開しています。子どもたち、あるいは障害のある方など、対象を限定したものについては別項にゆずり、ここでは、広く一般向けの教育普及事業について、評価の対象とします。

これらの事業を企画・実施するための基礎となっているのが、日々の調査研究です。その範囲は、所蔵作品に関することを中心に、広く美術に関すること、美術の教育普及に関することを含んでいます。

〔一次評価の理由〕

23年度の企画展は、作品を所蔵する作家の再評価を試みるもの、親子向けの展覧会、地域を代表する現代美術作家展など、多岐にわたっていました。

川端実展は、生誕100年を記念し、没後初の回顧展として、当館の所蔵、寄託する

作品も含め、戦後の代表作を中心に絶筆まで展示しました。また戦前の作品、所在不明の作品も含めて文献を中心に調査を行い、その基礎的な研究を展示、カタログに反映させました。

おもしろどうぶつ展は、「どうぶつ」をテーマにバラエティに富んだ作品を展示するとともに、夏休みの親子連れに楽しんでもらう工夫をこらしました。絵本コーナーや撮影コーナー、親子ギャラリーツアーを行うなど、来館者サービスについても新しい試みを行いました。

トリック&ユーモア展では、浮世絵、版画、フランスのシュルレアリスムの絵画、現代美術など多種多様な作品を展示しました。多くの人に関心をもたれる「トリック」をテーマに、質が高く、美術史にも興味をもってもらえるような作品選定を行いました。音声ガイド、子供向けのクイズシートなどを用意し、より楽しみながら理解できるように努めました。

島田章三展は、現代洋画家で、横須賀ゆかりでもある作家の展覧会。当館にとっては、多数所蔵するコレクションを生かしつつ、愛知県美術館と協力して、各学芸員が土地と作家との関係を論考し、展示、図録制作に生かした意義のある展覧会でした。

「正岡子規と美術」は、知名度の高い正岡子規の画業や、交流した画家たちなど子規の「写生」理論を軸に、明治の時代精神に迫ることを企図した展覧会です。

所蔵品展では、会期ごとに特集を組み、必要に応じて一部借用作品も加えて、より魅力のある展示となるよう努めました。

第1期では、「水彩とパステルによる風景画—木下コレクション」と題し、平成22年度に寄贈を受けた約40点の木下昂氏旧蔵の作品を中心に、風景画を特集展示しました。

第2期では、画家・堂本右美(1960-)の新作を一举に紹介。充実した展覧会となりました。あわせて、小冊子を発行しました。

第3期では、横須賀出身の藤代郁子(1947-2004)のパッチワークキルトを特集。

第4期では、寄贈された作品を含めて、画家・淀井彩子(1943-)の作品を特集。

谷内六郎館では、所蔵品展の会期と連動して、年4回の展示替えを行っています。会期ごとに、週刊新潮の1年分にあたる表紙絵およそ50点を順を追って展示しており、23年度は、1976年から1979年の表紙絵を展示しました。

23年度の教育普及事業(一般向け)を一覧すると、下表のようになります。

いずれも規模は大きくありませんが、入念な準備によって、それぞれ充実した内容となっています。参加者と講師、主催者の距離が近く、より密なコミュニケーションが可能であることは、事業効果の高さにつながっています。

講演会

タイトル	実施日	講師	定員	応募	参加
川端実—その人と画業	5月14日	古川秀昭 (岐阜県美術館館長)	70	—	23

ニホンザルと日本人	8月7日	丸橋珠樹(武蔵大学教授・霊長類学者)	70	—	20
江戸絵画の仕掛け	9月23日	榊原悟(群馬県立女子大学教授、岡崎市美術博物館館長)	70	—	27
島田章三 横須賀で画業を語る	12月10日	宝木範義 (明星大学特別教授) 島田章三(出品作家)	70	—	119
懐かしの昭和 “カマドでご飯を炊く” (谷内六郎展関連講演会)	3月18日	小泉和子(生活史研究家・昭和のくらし博物館館長・家具道具室内史学会会長)	30	26	24
正岡子規と中村不折 ～その交流	3月20日	復本一郎 (神奈川大学名誉教授)	70	—	125

展覧会関連ワークショップ

タイトル	実施日	講師	定員	応募	参加
絵の心地	6月4日	東島毅(画家・京都造形芸術大学教授)	20	21	18
動物を彫る	8月6日	三沢厚彦 (彫刻家・出品作家)	16	72	16
ろうで染まる紙 ～光と色のワークショップ～	2月24日	斉藤麗(インスタレーション・テキスタイル作家)	16	17	17
	2月25日		16	19	17
絵画の写生・ことばの写生 絵からはじまる俳句入門	3月3日	松井貴子 (宇都宮大学教授)	36	40	35

オトナ・ワークショップ

タイトル	実施日	講師	定員	応募	参加
透かしの和紙づくり	10月22日	森田千晶 (和紙作家)	12	41	11
	10月23日		12	29	12

映画上映会

タイトル	実施日	講師	定員	応募	参加
春のシネマパーティー 『女は女である』	5月28日	キノ・イグラー (シネクラブ)	各日	52	24
	5月29日		25	44	17

企画展・谷内六郎展に関連して、6回の講演会と、4回のワークショップを行いました。

ワークショップは、子どもを対象に行うケースも多いのですが、当館では特に大人

の方を対象として「オトナ・ワークショップ」を例年開催しています。23年度は、和紙づくりのワークショップを行いました。

映画上映会は、「シネマパーティー」として恒例化しているイベントです。

それぞれの事業の基礎には調査研究があり、その成果の一部は企画展カタログをはじめ種々の印刷物等で発表しています。

図書室では、所蔵資料の充実に努めるばかりでなく、気軽に入ってもらえ、のんびり過ごすことのできる環境づくりの工夫を重ねています。認知度向上のための取り組みも一定の成果につながっています。

【課題への取り組み】

[一次評価で掲げた課題]

- ・各展覧会の満足度は現に向上する傾向にありますが、解説をより充実させるなど、展覧会の内容を理解しやすくすることへの努力によって、さらなる向上を目指します。

→各展覧会で作品ごとの解説パネルを積極的に設置したほか、「トリック&ユーモア」展では、はじめて音声ガイドを導入しました。また、親子連れの方を主な対象に、セルフガイド、ワークシートなどの印刷物を配布する試みをしました。こうした取り組みが、展覧会満足度の底上げにつながっているものと考えています。

- ・地元作家の発掘など、地域に根差し、オリジナリティのある調査研究を進めます。
- 企画展や所蔵品展を通じ、地域にゆかりのある作家の作品を紹介しています。島田章三展や所蔵品展のほか、「おもしろどうぶつ展」では、追浜高校出身の土屋仁応(1977-)による木彫作品を採りあげました。

[二次評価で指摘された課題]

- ・美術の教科書に掲載されるような(作品が出品される)企画展を計画してほしい。

[佐倉]

→あまり知られていない優れた作品をひろく紹介することは、美術館の重要な役割のひとつですが、いっぽうで、すでによく知られた作品を見る機会づくりにも努力しています。「トリック&ユーモア」展では、エッシャーのだまし絵をはじめ、歌川国芳、上田薫、U.G.サトーなど、教科書に採用された作品を多く集めました。「正岡子規と美術」の浅井忠の作品なども、一般にもよく知られたものといえるでしょう。

- ・現代美術を扱う展覧会については、「答えがわかりやすいもの」を求めている来館者にとっては難解であると思われる。しかし、アートはひとつの答えを求めるものではなく、複数の多様な考え方を認めるものであるということが、企画展を通し多くの観覧者に浸透していくことを望みたい。[杉戸]

→美術の表現に多様性があることと同様に、作品の解釈も、本来見る側の状態や経験

によって変化するべきものです。解説パネルやギャラリートーク等で提供する解説が、作品の自由な鑑賞をかえって妨げることのないよう、注意して取り組んでいます。

・児童書蔵書の活用 [小林]

→23年度は「おもしろどうぶつ展」のなかで、動物の出る絵本コーナーを設置しました。図書室では、入口付近の展示架と、児童書コーナーで、子どもの目に付きやすい低い棚に絵本を表紙を見せて配架し、親子連れの利用を促しています。また、親子がいっしょに絵本を見られるように、椅子の配置を工夫するなどの気配りをしています。

・蔵書データの web 公開 [小林]

→従前から継続して予算要求をしましたが、残念ながら費用対効果の面で認められませんでした。23年度は予算要求をしていません。

・所蔵作品・資料の充実も欠く事のできないものである。(所蔵作品展では「朝井閑右衛門」コーナーが、常設展示されているが、もう少し詳しく作家紹介がされるとおもしろい。ここに来館すれば「朝井閑右衛門」についていろいろと学習ができると思えるような装置) [杉戸]

→図書室では、開催中の企画展や所蔵品展の内容に合わせ、入口付近の展示架に、関連する書籍を集めたコーナーを設けています。当館の建築に関する資料も閲覧が多いため、目に付きやすい場所に配架しています。

・図書が充実しているのに利用環境が整っていない。展覧会を見て図書を利用する(時間的)余裕がない。 [水島]

→図書室の利用可能時間は開館時間に準じており、開館中はいつでも無料で利用することができます。ただし館外貸し出しには対応しておりません。これは、代替品のない貴重書が多いことが主な理由です。

また、展覧会の観覧については、駐車料金の最初の1時間を無料とするサービスを行っていますが、図書室やワークショップ室のみの利用については適用していません。あくまでも、観覧料等のお支払に対する減免として実施しているためです。

【次年度への課題】

- ・解説などの工夫に加え、資料の調査・展示の充実をはかる。その成果は図録に反映させ、学芸員が論文を書く。
- ・幅広いテーマおよび観客を想定し、コンセプトを明快にした質の高い展覧会及び教育普及事業を開催する。
- ・図書室の情報発信の充実

④学校と連携し、子どもたちへの美術館教育を推進する。

〔一次評価〕

達成目標	実施目標
S	A

【達成目標】中学生以下の年間観覧者数 15,000 人

〔目標設定の理由〕

- ・子どもたちが美術館に親しみを持ち、利用しやすくするためのさまざまな取り組みをしていますが、その成否は、実際の観覧者数に反映されるはずですが、過去の実績を踏まえ、取り組みの工夫と強化で達成可能な数値として 15,000 人と設定しました。

〔一次評価の理由〕

- ・23年度の年間観覧者数は 22,768 人となり、目標を大きく上回りました。

(中学生以下の観覧者数)

	幼児	小学生	中学生	計
19年度	3,090	11,038	3,048	17,176
20年度	1,586	9,560	2,348	13,494
21年度	1,706	10,981	2,252	14,939
22年度	3,074	10,418	2,941	16,433
23年度	4,041	14,442	4,285	22,768

若年層に配慮した展覧会と、そのPR計画の成功が、目標達成につながっています。

7～8月の夏休み中に開催した「集まれ！おもしろどうぶつ」展、および9月～11月に開催した「トリック&ユーモア」展では、子どもと一緒に来館する家族連れのお客様が目立ちました。7・8月の「幼児」の観覧者は前年比2割増、学校単位での来館がない8月の「小学生」の観覧者も1.9倍となりました。また、「トリック&ユーモア」展開催期と重なる9・10月には「小学生」の観覧者が2.6倍と急増しています。これは、チラシ掲載作品が教科書にも掲載されているといった、作品自体のポピュラリティに加え、市内の小学校を通して全児童にチラシ配布したことが効果をあげたと考えられます。

夏期には、「中学生」の観覧者が前年比1.9倍となっており、「中学生のための鑑賞教室」が、学校の課題等と連動することで定着してきたことがうかがえます。

児童生徒造形作品展」における「中学生以下」の観覧者数が前年比9割とやや低調だったものの、全体的では、「中学生以下」の観覧者数は前年比1.38倍と、大きく伸

びており、美術館ならではの鑑賞活動に対する、学校・家庭の関心の高まりがうかがえます。

【実施目標】

- ・学校における造形教育の発表の場として、児童生徒造形作品展を実施する。
- ・学校と緊密に連携し、子どもたちにとって親しみやすい鑑賞の場をつくる。
- ・子どもたちとのコミュニケーションを通じて、美術の意味や価値、美術館の役割などに気づき、考え、楽しみながら学ぶ機会を提供する。
- ・鑑賞と表現の両方を結びつけたプログラムを実施する。

[目標設定の理由]

美術教育は表現と鑑賞との両輪によってなりたつものですが、多くの学校教育現場では鑑賞の機会に乏しく、造形教育に偏りがちでした。

近年の数度にわたる学習指導要領の改訂にともなって、小・中学校における鑑賞教育がより重視されるようになってきています。平成 23 年度から実施された小学校の新学習指導要領では、鑑賞教育のために地域の美術館を利用することに加え、学校と美術館との連携を図ることが明示されています。

学校教育ではできない、美術館にしかできないことは何かをじゅうぶん意識しながら、鑑賞教室やワークショップ、作家との連携等充実したプログラムを企画、提供することによって、子どもたちが美術に親しみをもつ機会の拡充につとめていきたいと考えています。

[一次評価の理由]

中学生のための美術鑑賞教室

タイトル	実施日	講師	定員	応募	参加
中学生のための美術鑑賞教室	7月23日～ 8月23日の うち15日間	担当学芸員	—	—	281

アーティストと出会う会

タイトル	実施日	講師	定員	応募	参加
アーティストと出会う会 第1回	7月26日	石津淳子(イラストレーター)	40	43	44
アーティストと出会う会 第2回	8月3日	後藤楯比古	40	93	82

親子ギャラリーツアー

タイトル	実施日	講師	定員	応募	参加
親子で楽しむ美術館ツアー	7月22日	担当学芸員	10	23	9

探検！おもしろどうぶつワールド	7月23日		10	17	8
-----------------	-------	--	----	----	---

展覧会関連ワークショップ

タイトル	実施日	講師	定員	応募	参加
ぼくとわたしの動物園	7月30日	マリーニモンティニー (イラストレーター)	30	113	30
	7月31日		30	97	30
親子ワークショップ フェルトのどうぶつマット	8月9日	よねまつこまごま製作所 (美術館スタッフ)	12	66	10
	8月10日		12	80	12
サイコロ型の迷宮 不思議な万華鏡をつくろう	9月25日	照木公子 他 (万華鏡楽会)	20	84	24
不思議なカリンバ ステキな音色つくっちゃ OH!	1月14日	井上リエ (イラストレーター、造形作家)	40	121	38
発見！絵具って楽しい	7月24日	堂本右美 (美術家)	20	26	22

こどもワークショップ

タイトル	実施日	講師	定員	応募	参加
豆乳でかく、コーヒーで染める	10月29日	SOY+ (染織家)	10	11	11
	10月30日		10	13	13
不思議なぼうえんきょうをつくろう！	3月10日	矢生秀仁(出前ワークショップ Do ナツ主宰)	30	59	30
	3月11日		30	37	30
未就学児ワークショップ それぞれの昼下がり	10月8日	石井恵 (さんまのくら主宰)	10組	16	17
	10月9日		10組	24	25

映画上映会

タイトル	実施日	講師	定員	応募	参加
夏の野外シネマパーティー 『地球の果ての果て』他2本	8月27日	キノ・イグルー (シネクラブ)	—	—	150
	8月28日				250

- ・子どもを対象とした普及事業に積極的に取り組んでいます。ワークショップをはじめとした造形活動のほか、野外映画会や、親子向けのギャラリートourなど、さまざまな方向性から、幅広く美術を楽しむ機会を設けています。
- ・親子向けのギャラリートourを試行するなど、鑑賞支援活動についても対象となる年齢層の幅を広げています。
- ・開館2年目の平成20年度から、市内の子どもたちの作品を一堂に展示する「児童生徒造形作品展」の会場となっています。学校・幼稚園と緊密に連携しながら、運営にあたっています。
- ・市内の全47小学校の6年生を対象として、「美術館鑑賞会」を実施しています。対応には複数の職員(学芸員)と鑑賞サポートボランティアがあたり、ワークシートなどを利用して、鑑賞の楽しさを知ってもらえるよう努力しています。受け入れ側

が経験を積むことによって、鑑賞内容も充実に向かっていきます。

- ・市外や私立の小・中学校団体に対しても、事前の相談を経て、注意事項についての話やワークシートの提供を行うことがあります。
- ・夏休みの時期にあわせ、「中学生のための美術鑑賞教室」を実施しています。参加は任意ですが、昨年度から、広報する地域を上げたため、市外中学生の参加も増加しています。参加者への「鑑賞ガイド」配布や、個々の相談に応じる姿勢が誘致につながっていると考えられます。
- ・「アーティストと出会う会」では、会場に作品を持ち込み、講師を囲んで、現在までの道のりや夢に向かう姿勢を語るかたちが人気を呼んでいます。

【課題への取り組み】

[一次評価で掲げた課題]

- ・学校との連携をさらに深めます。
→教育普及事業の実施にあたり、市立学校長会議での情報提供をはじめ、先生方との連絡調整をていねいに行いました。
- ・子どもたちや学校のニーズを把握し、より魅力的で、充実したプログラムづくりにつとめます。
→横須賀市立長浦小学校の研究授業に参加し、学校現場での鑑賞教育の実践や、先生（教師）の意見を把握することができました。

[二次評価で指摘された課題]

- ・自治体の美術館として、英国にみるように、子供たちの学習の場としての機能と役割を高めるための活用方法を模索することが求められる。 [小林]
→今年度は、セルフガイドや、親子向けギャラリートัวร์などに新たに取り組みました。今後も、子どもたちにとって親しみやすい美術館となるよう、さまざまな試みをしてまいります。
- ・学校と連携する、というのが、観覧者数の底上げが目的であってはならない。子どもたちにどのような「気づき」を与えられるかが大事。鑑賞会の狙い、前後を含む指導方法について、学校と美術館が共通の問題意識をもってあたるよう連携を深めるべき。 [菊池]
→小学校鑑賞会では、原則として事前に先生方に美術館に足を運んでいただいて、当日の受け入れ担当者と指導方針の確認をすることにしていきます。

【次年度への課題】

- ・「おもしろどうぶつ展」で実施し、好評だった「親子ギャラリートัวร์」を、各企画展で実施します。
- ・未就学児による美術館利用を促進するため、保育園と連携した鑑賞プログラムを実施します。

⑤所蔵作品を充実させ、適切に管理する。

〔一次評価〕

達成目標	実施目標
—	C

【達成目標】（なし）

〔目標設定の理由〕

購入費（基金）が充当されていないため、収集は寄贈に頼っている状況です。

寄贈される作品の質については、専門家による外部委員会である「美術品選定評価委員会」によってすでに保証されていますが、作品の収集は数量によって評価されるべきではありません。

作品の修復、額装等の処置についても、個々の事例に即して対処しているため、やはり数量的な評価に適していません。

作品の貸出は、依頼に応じて行う性格のものであり、また、作品保護の観点からも数量的な評価をすべきではないと考えます。

したがって、この項目では達成目標を設定しません。

【実施目標】

- ・ 収集方針に基づき、主体性を持って積極的な収集活動を行う。
- ・ 適正な保管環境を維持し、そのチェックのため必要な調査を実施する。
- ・ 計画的に所蔵作品の修復、額装を行う。
- ・ 所蔵作品がひろく価値を認められ、他の美術館等で開催する企画展などに活用されている。

〔目標設定の理由〕

- ・ すぐれた美術作品をひろく収集し、次世代に伝えてゆくことは、美術館の果たすべき基本的な役割です。そのために、保管のための適切な環境整備と、作品そのものの修復および保護を行っています。他の機関での展示等の所蔵品の活用は、作品への影響をじゅうぶんに考慮したうえ、可能な範囲で行っています。

〔一次評価の理由〕

平成 23 年度に当館で開催した「川端実展」をきっかけとして寄贈を受け入れた川端実作品 40 点には、画家の代表的な作品が含まれており、コレクションの充実につながっています。

作品収集全体をみると、寄贈のみに頼っているにも関わらず、平成 20 年度以降、

毎年 50 点を超える作品を受け入れています。しかしながら、作家本人、遺族からのご寄贈の場合、展示で活用してゆくために修復、額装が必要であるケースがほとんどです。また、短期間で多くの作品を寄贈によって受け入れることには、長期的にみたときに、コレクションのバランスを崩してしまうおそれもあります。今後このようなペースで作品を受け入れ続けることは困難であり、より慎重な作品収集を行うべきと考えています。

収蔵庫・保管庫について、昆虫類、菌類、気相についての調査（環境調査）を開館以来継続的に行っています。今年度も例年通り 2 回、5 月と 8 月に調査を行いました。今年度は、東日本大震災後の電力不足にともない、夏期の節電が求められました。収蔵庫・保管庫では、5 月の調査時に検証を行ったうえで、夏期に夜間空調を停止（日中は運転）する措置をとりました。しかし、8 月 18 日にいたり、空調を停止していた荷解室で、蔵置していた木材にカビの発生を視認。ただちに、不用材の処分と清掃を実施し、空調を再開しました。この後に行った 2 回目の環境調査では、昆虫類（チャタテムシ類）および空中浮遊菌の増加が認められましたが、収蔵庫内への影響は少なかったことが確認できました。このことから、保管環境維持のためには、空調を停止することは好ましくなく、もしやむなく停止する場合には、環境の変化について日々監視する必要があることがはっきりしました。

近年の寄贈作品を中心に、必要な修復、額装を行っているほか、既存の作品でも画面への映り込みがはなはだしいものについては、低反射のガラス、アクリルへの入れ替えを進めています。時間のかかる作業であるため、予算の範囲内で少しずつ計画的に行っています。

所蔵作品の活用について、個展を中心に所蔵作品のうち 18 件（寄託作品を含む）を他機関に貸し出しました。当館の所蔵品が、その作家の画業を振り返る上でも重要な作品とみられていることを示すのにじゅうぶんな実績といえますが、件数でも平成 21 年度実績の 16 件、平成 22 年度実績の 12 件を上回っています。

以上を総合的に見て、前年度以上の活動をしているといえますが、作品購入費の充当が途絶えている状況が解消されていないことから、一次評価を「C」としました。

【課題への取り組み】

[一次評価で掲げた課題]

- ・ 作品購入費の予算化を検討します。
→朝井閑右衛門の特定の作品を想定したうえで、平成 24 年度予算を要求しましたが、配当がなされませんでした。

- ・ 収集作品を精選します。
→平成 23 年度の寄贈作品には、状態がよく、すぐに展示できる作品が多く含まれて

おり、内容については問題ないと考えています。ただし、収蔵庫の状況から、受け入れ作品はより精選すべきであり、引き続き次年度以降の課題とします。

- ・貸出作品の偏りを減らすため、所蔵作品の活用と周知につとめます。
- 修復や額装等をすませた作品は順次、所蔵品展のなかで積極的に活用しました。ただし、印刷物の製作等を行っておらず、周知方法にはまだ努力の余地があると認識しています。

[二次評価で指摘された課題]

- ・予算の関係があつてか、作品収集の状況は寄贈と寄託に依存しており、美術館としての独自の収集方針に基づく収集活動という点では問題がある。また、長期的にみでのコレクションのバランスを考慮して受け入れを考えることが必要である。[小林]
- 寄贈・寄託作品についても、収集方針にしたがい、選定評価委員会を承認を得て受け入れています。しかしながら、長期的なバランスを考えた能動的な収集活動をすることは現状では困難です。
- ・根幹となるコレクションを育て、よい作品の寄贈を招くためにも、購入費は必要。多額でなくてもよいから計上すべき。[山梨]
- 前述のとおり、朝井閑右衛門の特定の作品を想定したうえで、予算要求をしたものの、認められませんでした。

【次年度への課題】

- ・ひきつづき作品購入費が回復するよう各所に働きかけます。
- ・収集作品を精選します。
- ・節電時の保管環境保全に留意します。
- ・貸出作品の偏りを減らすため、所蔵作品の活用と周知につとめます。

Ⅲ訪れるすべての人にやすらぎの場を提供する

⑥利用者にとって心地よい空間、サービスを提供する。

[一次評価]

達成目標	実施目標
B	B

【達成目標】

- ・館内アメニティ満足度 80%以上
- ・スタッフ対応の満足度 80%以上

[目標設定の理由]

館内アメニティ満足度については、来館者が気持ちのよい時間を過ごしていることを示す指標であると考えます。21年度から、アンケートのなかに質問事項を加え、「全体的にみて、館内では気持ちよく過ごすことができた」に対する満足度を指標（総合満足度）としました。21年度、22年度の調査結果を踏まえ、達成可能な目標として、80%以上と設定しました。

スタッフ対応の満足度については、来館者アンケート「スタッフの対応・案内は適切だった」に対する満足度であり、過去の調査結果をもとに、達成可能な目標として80%以上と設定しました。

[一次評価の理由]

館内アメニティ満足度については、前年度以上の高い水準にありますが、スタッフ対応の満足度については、惜しくも目標に到達できませんでした。したがって、B評価としました。

	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度
館内アメニティ満足度	未調査	未調査	88.7%	88.5%	90.4%
スタッフ対応の満足度	78.9%	69.6%	79.0%	78.0%	78.5%

【実施目標】

- ・建築のイメージを損なわないよう、じゅうぶんなメンテナンス、館内清掃を行う。
- ・受託事業者と協力して、ホスピタリティのある来館者サービスを実践する。
- ・受託事業者と協力して、付帯施設（レストランおよびミュージアムショップ）を来館

者ニーズに応じて運営する。

〔目標設定の理由〕

横須賀美術館が来館者に好ましい印象を持たれている大きな要因として、周囲の豊かな自然と、その風景と調和したユニークな建物があります。しかし、海のそばに立地していることから、強い風雨にさらされることも多く、また塩害によって老朽化の速度が進んでいることも事実です。建築の魅力をいつまでも来館者に伝えていくためには、適切なメンテナンス、清掃を継続してゆくことが重要となります。

さらに、ご案内をするスタッフの対応いかんによって、美術館に対する印象は大きく左右されます。受付・展示監視スタッフは受託事業者ですが、市職員との緊密な連携を図り、一体となって、来館者の立場に立ったより良い接客を目指します。

美術館体験のなかで、買い物や食事をする 것도、来館者の大きな楽しみです。やはり民間事業者であるレストランおよびミュージアムショップと連携し、来館者のニーズに即応したサービスの提供がなされるよう、知恵を出し合い、工夫を重ねてゆきます。

〔一次評価の理由〕

(メンテナンス)

- ・敷地内園路沿いのアジサイを補植しました。(22年度、23年度実施)
- ・空調熱源機3台の内1台のオーバーホールを実施しました。

(休憩所)

- ・繁忙期(GW・夏季)の休憩所を確保するため、引き続き屋外休憩所(テント)を設置しています(20年度以降毎年)。なお、テントの劣化が激しいため、買い替えました。

(清掃)

- ・日常の清掃について、人員が限られている(開館前4名・日中1名)なかで、利用状況に応じて重点を移す効率的な清掃を心がけています。
- ・水まわりについては・・・・・・。

(災害時の対応)

- ・例年通り避難訓練を実施しましたが、東日本大震災を受け、高台への避難および地下展示室からの車イス搬送などに重点を置きました。訓練参加者の意識も例年以上に高く、効果的な訓練ができました。

(スタッフ対応)

- ・受付や展示監視に従事するスタッフは、来館者と直に接するためクレームの対象となりやすく、特に展示監視は来館者への注意なども業務として行うため、どうしてもクレームと切り離せない状況です。スタッフ対応に関わるクレームは開館当初から多く、現在でも年に数件のクレームはありますが、受託事業者の自助努力(研修、

スタッフの入替など) や、館内における情報の共有化の促進によって日々改善の努力を続けており、21年度以降は満足度の数値も一定以上の水準に達しているといえます。

- ・運営事業者連絡会議の開催 (21年度以降継続)
→レストラン、ショップ、受付、展示監視、広報・総務・学芸の各担当が集まり、館内で起こっている諸問題について情報共有、改善の提案をしています。(月例) 企画展コラボメニュー、オリジナルグッズについても話し合っています。
- ・展示監視日報 (21年度以降継続)
→情報共有、対応方法の指示をきめ細かに、リアルタイムで行うため、来館者からのクレームの内容、対応等の記録、報告を展示監視事業者に対して義務付けています。
- ・受付・展示監視研修の実施 (22年度、23年度)
→学芸員も参加してロールプレイング研修を実施。展示監視スタッフについては、22年度実施。受付スタッフは、震災の影響で延期していましたが、23年度実施しました。

【課題への取り組み】

[一次評価で掲げた課題]

- ・塗装外壁の劣化、および鉄部の錆が目立ってきており、早急に対策を講じます。
→24年度予算要求を行っています。
- ・美術館入口や図書室の場所がわかりにくいとの意見が多く寄せられているため、館内サインの見直しを検討します。
→図書室への廊下、図書室入口のドアおよび1Fエントランスに、図書室への案内サインを増設しました。

[二次評価で指摘された課題]

- ・スタッフにはただ立っているだけでなく、難しいとは思いますが観覧者の様子を見て、作品の説明をしてほしい。[佐倉]
→企画展開催直前に、学芸員より展示監視スタッフへ作品解説を実施し、簡単な質問には回答できるよう指導しております。ただし、お客様によっては、話しかけられるのを嫌がるお客様もいらっしゃいますので、こちらからの積極的な声かけはしておりません。
- ・わずかではあるが、完全には目標を達していないという点からみて予断を許さない状況ではある。今後とも継続的に努力をしていくべきである。[杉戸]
→ご指摘通り、継続的な改善を進めていきます。

- ・おおむね良いと感じているが、スタッフの対応はサービス業と考えてさらに来館者が心地よく過せるよう心がけてほしい。[水島]

→受託事業者との更なる連携を図ります。

- ・海の近くということもあり、震災時には津波などの影響も十分に考えられるが、完全に孤立してしまう心配をまざまざと感じる。来館者が安心して美術館に訪れられるよう、万が一の災害時の対応や備えは万全にしておくべきである。[杉戸]

→避難に関しては、避難マニュアルの作成や、訓練項目の精査を進めます。東日本大震災の際に外部との連絡が絶たれたため、災害時優先電話の回線設置を行ないました。今後、帰宅困難者対策を検討してまいります。

【次年度への課題】

- ・休憩所、特に飲食可能な場所の確保については、ハードにかかわることであり、長期的な課題として認識しています。
- ・災害時の対応について再検討し、避難マニュアルを作成します。
- ・レストランの席数はハードの問題であり拡大することは困難であるため、事業者とよく連携し、接客の工夫によって利用者のストレス軽減につとめます。

⑦すべての人にとって利用しやすい環境を整える。

〔一次評価〕

達成目標	実施目標
B	B

【達成目標】 福祉関連事業への参加者数のべ 200 人

〔目標設定の理由〕

- ・過去の実績を踏まえ、企画の内容や取り組みの工夫、広報の強化で達成可能な数値として 200 人と設定しました。

〔一次評価の理由〕

- ・23 年度の福祉関連事業への参加者数はのべ 153 人であり、目標に達しませんでした。

(福祉関連事業への参加者数)

	19 年度	20 年度	21 年度	22 年度	23 年度
講演会	20	20	27	35	22
ワークショップ	25	19	16	43	22
みんなのアトリエ		115	101	114	111
その他	67	73	250	347	0
計	112	227	394	539	153

- ・4 月に実施を予定していた福祉パフォーマンス（春の宴）が、震災の影響で中止となったことが、参加者数の大幅な減少につながっています。
- ・みんなのアトリエへの参加者は例年並みです。

【実施目標】

- ・年齢や障害の有無などにかかわらず、美術に親んでもらう（環境づくりの）ための各種事業を行う。
- ・必要に応じて、対話鑑賞等の人的サポートを実践する。

〔目標設定の理由〕

- ・各種事業を通じて、美術館が健常者のみの施設ではないこと、障害の有無に関わらず美術を楽しめること、また各年齢や状況に応じた楽しみ方があることを伝えていきたいと考えています。
- ・設備や什器を新規に導入するよりも、対話鑑賞のような人的対応を充実させることのほうが、福祉の充実につながると考えています。

- ・障害者等のニーズを、職員が実践を通して知ることによって、次年度以降の取り組みや長期計画に活かしていきたいと考えています。

[一次評価の理由]

- ・福祉関連事業として、下記の各事業を実施しました。

講演会

タイトル	実施日	講師	定員	応募	参加
TACTILE(触覚)	7月23日	駒形克己 (造本作家、デザイナー)	70	—	22

ワークショップ

タイトル	実施日	講師	定員	応募	参加
TACTILE(触覚)	11月20日	駒形克己 (造本作家、デザイナー)	30	23	20

パフォーマンス

タイトル	実施日	講師	定員	応募	参加
春の宴	4月3日	春山繁夫(ベーシスト)他	—	—	—

※東日本大震災の影響で中止

障害児向けワークショップ「みんなのアトリエ」

タイトル	実施日	講師	定員	応募	参加
絵具とあそぼ なかよしクラブ!	4月16日	後藤敦史(造形作家)	10	11	8
さわやか音色つくっちゃ OH!	5月21日		10	11	11
ねんどネンド NenDo!	6月18日		10	16	7
ちぎってまるめてガムテと新聞紙	7月16日		10	12	9
おもしろどうぶつ工作ランド	8月20日		10	18	14
木と木と木 ときめきワールド	9月17日		10	17	10
絵具とあそぼ なかよしクラブ!	10月15日		10	17	13
さわやか音色つくっちゃ OH!	11月19日		10	18	7
ねんどネンド NenDo!	12月17日		10	20	8
ちぎってまるめてガムテと新聞紙	1月21日		10	10	5
おもしろどうぶつ工作ランド	2月18日		10	12	9
木と木と木 ときめきワールド	3月17日		10	12	10

- ・障害児向けワークショップ「みんなのアトリエ」では、リピーターに加え、新規参

加希望者も見られ、口コミで確実に活動のことが広がっています。講師はもちろん、職員も参加者の特徴や障害者に対する対応がある程度つかめてきて、相互の信頼関係が築かれてきたようです。

- ・福祉講演会は講師の活動も講演内容も魅力的だったにも関わらず、参加者数はのびませんでした。今後は、障害者本人や、ボランティアなど福祉と関連のある人に情報が届くよう、工夫する必要があります。
- ・震災の影響により、予定していた福祉パフォーマンスが実施できませんでした。
- ・より多くの方に利用していただく方法を模索するため、いままで土日に実施していた託児サービスを、試行的に平日に実施しました。
- ・「大きな文字による館内のご案内」パンフレット（A3 版二つ折）を新たに製作し、館内ラックに配架しました。

【課題への取り組み】

[一次評価で掲げた課題]

- ・「みんなのアトリエ」については、リピーターも多いため、新たな活動内容を講師とともに充実させる必要がある。また、広報によって年度末の作品展示への来場者を増やすなど努力の余地がある。

→年 12 本のうち、4 本を新しい内容で実施しました。ワークショップ室での作品展示については、参加者への通知、美術館 HP および館内掲示によって広報しました。実際の来場者数については未調査のため、広報の効果は確認できていません。広報よこすか等の紙媒体への掲載は実現できませんでした。

- ・福祉講演会や託児サービス、対話鑑賞については毎年定員に達しないことが多いため、次年度以降も広報の工夫など、障害のある人や小さな子どもがいる親子連れのアクセシビリティの向上などの努力が必要である。託児サービスについては、土日だけの実施ではなく、平日の実施も試みるなど小さな子を持つ保護者の動向を知り、ニーズに合った実施内容を探る必要がある。

→託児サービスについては平日実施を試行し、ニーズのあることを確認しました。

- ・養護学校については、常連校ができたが、その分活動内容に幅をもたせて、同じことの繰り返しとにならないようにしたい。

→養護学校側からの提案をとり入れた制作ワークショップを実施しました。

[二次評価で指摘された課題]

- ・高齢者にも心のオアシスとして、美術館に来てもらいたいので町内会や老人会にも声をかけられたらいいと思います。[佐倉]

→横須賀市内および周辺市町村（逗子・鎌倉等）の高齢者施設に各展覧会チラシを配布しました。

【次年度への課題】

- ・「みんなのアトリエ」については、リピーターも多いので、講師と協力して新たな内容を模索します。活動をより多くの方に認知してもらうため、年度末に作品をワークショップ室で展示していますが、市役所など館外でも展示を行うなど、工夫の余地が残されています。
- ・福祉講演会や託児サービスは、定員に満たない状態が続いています。ひきつづき広報を工夫していきます。障害のある人や、小さな子どもがいる人などが参加しやすいよう努力します。
- ・託児サービスについて、平日のニーズが高いことがわかったので、次年度以降は、教育普及事業と関連しない実施日（定期託児）については、平日に実施することとします。
- ・養護学校の受け入れについては、制作の指導を期待されるケースが多いのですが、あくまでも鑑賞を中心とした、作品に関わりを持てるような活動を提案していきたいと考えています。子どもたちの障害の程度に適合するよう、また、マンネリとならないよう努力します。

⑧事業の質を担保しながら、経営的な視点をもって、効率的に運営・管理する

〔一次評価〕

達成目標	実施目標
A	B

【達成目標】

- ・美術館全体で年間に使用する電力量を前年比△5%とする。
- ・管理事業にかかる年間消耗品費執行率を予算の△10%とする。

〔目標設定の理由〕

美術館は社会教育施設であり、収益をあげるための施設ではありませんが、公の施設として、効率的な運営が求められています。事業の質を担保しつつ、経費を削減するためには、管理部門での効率化を目指すしかありません。今年度は、東日本大震災度の電力不足から、節電が求められていることもあり、年間使用電力量の削減を目標としました。また、日々の業務で使用する消耗品を節約することで達成しうる、消耗品の執行率抑制を目標に設定しました。

〔一次評価の理由〕

消耗品の執行率については、各所の節約を心がけた結果、目標を大きく上回りました。電気使用量については目標を達成できませんでした。具体的な内容については以下のとおりです。

- ・当館で使用しているエネルギーのほとんどは電気であり、空調機が最も電力を使用することから、空調機の熱源水槽の効率的な稼働を調査し、日々の天候や来館者数等によって稼働を調整することで、電気使用量の削減につなげました。
- ・電力使用量については、使用量が85.7%と大幅に目標を達成したものの、電力料金については96.6%と5%の目標を達成することはできませんでした。
- ・消耗品の執行率については執行率73.5%と目標を上回りました。平成23年度は平成22年度よりも消耗品の予算が減っていますので、大幅に目標を上回ったと言えます。

	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度
電気使用量 (KWh)	3,473,952	3,004,920	3,049,128	2,946,360	2,525,376

【実施目標】・職員すべてが費用対効果をつねに意識し、効率的な支出を行う。

【目標設定の理由】

公立美術館は収益を目的とはしていないため、民間企業の経営手法を取り入れることは無理があります。しかしながら、より少ない経費でより効果的に事業を執行することは日ごろから取り組まなければなりません。サービスの質を低下させずに経費削減を目指すには、職員全員が費用対効果を常に意識した行動が必須であると考え、これを目標としました。

【一次評価の理由】

- ・ 予算の執行に当たっては、定められた基準等により契約額および契約先は入札によって決定することとなります。入札による競争によることで、業務の質を担保しつつ最も少ない経費で業務を執行することができるため、対象となる案件については確実に入札に付すこととし、経費削減を実現しています。

【課題への取り組み】

【一次評価で掲げた課題】

- ・ 市の財政も厳しいことから、やむなく予算を削減された部分もあり、今後、従来どおりのサービスの質を提供できなくなることも考えられます。引き続き予算執行にあたっては、創意工夫と計画的な執行に努め、サービスの質を維持していくよう、職員相互に連携を図りながら取り組まなければなりません。

→従来から継続している取り組みであり、平成 23 年度も同様に取り組みました。

【二次評価で指摘された課題】

- ・ 開館時間などはもう少し効率的にして良いと思うのだが…。[水島]

→平成 23 年度は、夏期の電力不足にともなう節電要請のため、夏期（6 月～9 月）に実施していた開館時間延長（19 時まで、土日は 20 時まで）を 7 月から中止しました。節電が求められる状況は、24 年度以降も継続するとみられます。夏期等の開館時間については、見直しを検討していきます。

【次年度への課題】

平成 23 年度は一部の指標について目標を立てて取り組みましたが、24 年度も適切な指標を設けるのが困難な中にも、具体的な管理目標を立てて取り組んでいきます。